

テレビ静岡では番組の適正化を諮るための審議機関「番組審議会」を設けています。

このページでは番組審議会の議事の概要をお知らせしています。現在、テレビ静岡では県内在住の8名の方に審議委員をお願いしており、毎月1回（2月、8月は休会）番組について、ご意見を伺い、今後の番組制作の参考にさせていただいています。

テレビ静岡 平成30年7月度 番組審議会概要

平成30年7月12日（木）

13時50分～

テレビ静岡本社 4階 会議室

— 出席委員 —

高木 正和(委員長・欠席) 戸崎 文葉(副委員長) 石田 美枝子
木村 精治 上柳 正仁(欠席) 齋藤 照安 五十住和樹 海野洋平

— 議 題 —

番組名 第27回FNSドキュメンタリー大賞ノミネート作品
「けさない灯り 山の診療所」

放送日時 平成30年5月26日(土) 16時～16時55分

制作著作 テレビ静岡

— 番組内容 —

静岡市の山あいの集落「梅ヶ島」で唯一の医師、瀧浪慎介は現状を嘆く。

昭和30年には1,850人いた住民は360人まで減少。患者の8割が後期高齢者で、65歳未満は1割以下。一日の患者数は平均10人・・・「公設民営方式」の診療所は赤字が続く。

梅ヶ島の医療を守るには・・・山の診療所、通う住民もさまざま。週末だけ山に帰るかつての山の男、天空の茶園に住む老夫婦、瀧浪先生が「先生」と呼ぶ90歳の雑貨店店主。瀧浪先生はそんな住民の生活を18年間守ってきた。

なぜ医療環境も整わず、採算もとれないこの地で医師を続けているのか？住民の命を守る「灯り」とをもし続ける瀧浪先生の覚悟と山里で暮らす住民の思いを描き出す。

— 審議概要 —

- ◎全国の中山間地の現状を捉え、将来に向けての問題提起をして素晴らしい番組だった。
- ◎瀧浪先生を梅ヶ島に戻した重要人物、市川さんの数珠送りの際の表情がよかった。
- ◎地域の人達の思いが瀧浪先生を支え、その思いにこたえている瀧浪先生が素晴らしい。
- ◎持病を抱えながら生きがいを持って暮らす、おじいさんおばあさんの笑顔がよかった。
- ◎瀧浪先生のお父さん、市川さん、瀧浪先生の三人の関わりがしっかり表現されていた。
瀧浪先生が深夜に引っ越してきた時に、市川さんがカレーを作って待っていた話はよかった。
- ◎市の補助金が診療所を支えている。瀧浪先生の引退後の梅ヶ島地区が心配だが、理学療法士の指導に“ぼんやり明るい未来が見えた”と評価する意見と“根本的な解決ではない”“行政はどう考えているのか掘り下げが欲しい”と意見が分かれた。
- ◎地域の人達との交流の深さは分かったが、瀧浪先生の葛藤は本当はどうだろうかと気になった。
- ◎お茶や自然など映像的にオクシズの魅力が伝わった。
- ◎おばあさんと先生が、家の灯りと診療所の灯りで繋がっているシーンは、映像メディアならではの表現でよかった。灯りが、思いやりや共助の精神的な灯りと感じた。
- ◎行政的にはどうなのかの問題提起面では、シリーズ化していけばよいのでは。
- ◎外から別の医者を招くのか、限界集落になるのか、番組として示す必要が有る。
- ◎番組冒頭から音楽、音が少なく、全体的に凄く静か。地域の特徴を音で感じた。
- ◎心のふれあいの暖かい所で終わるのではなく、問題提起がもっと強くあった方が良い。

第2部 諮問「放送一般に関する意見質問について」

以上、制作部門にフィードバックし、今後の番組作りで参考とさせていただきます。

次回の番組審議会は平成30年9月13日（木）の予定です。